
来年の元旦は射殺しまくるぞ！

ごはんライス

注意事項

このPDFファイルは小説サイト「小説家になろう」で掲載中の小説を、「PDF小説ネット」の変換システムが自動的にPDF化したものです。この小説の著作権は作者にあり、作者または「小説家になろう」および「PDF小説ネット」を運営するウメ研究所に無断でこのPDFファイルおよび小説を引用を超える範囲で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止します。小説の紹介や個人用途での印刷および個人用途での保存はご自由にどうぞ。

【小説名】

来年の元旦は射殺しまくるぞ！

【コード】

N3361D

【作者名】

ごほんライス

【あらすじ】

またまた不謹慎なお話。最近こんなんばつか。たけしは元旦は街へ出て射殺しまくると決心するのだが・・・

来年の元旦は射殺しまくるぞ！

来年の元旦は射殺しまくるぞ！

あわてて拾う。

「お前、物騒なこと言うなア」

「どうなんですか？」

「うーん」

神は腕を組んだ。

「まア。通常ならね、そんなんされたらわしの仕事が増えるからな、いかんのやけども、しかし、来年はとにかくテロやらイラクやら北朝鮮の問題やらトヨタの過労死の問題やら温暖化やらとにかく仕事が増えるから、まアええんちゃう？」

「てことは射殺とかしても天罰はなしと」

「うん。なし。わしも忙しいねん。そんなことしとるヒマない」

「わかりました。ありがとうございます」

「あいよ」

なんだ。あっさり許可が出た。

しかし、許可が出ると逆にやる気がなくなるなア。やっちゃいけないと言われるから燃えるんだ。

しかし、男に二言があつてはいけない。射殺すると言った以上は必ず実行しよう。

しかし、めんどくせえなア。

元旦くらい、こたつでノンビリしていたいなア。

あ。いいこと考えた。

代わりに射殺に行ってくれる人を募集しよう。

こういうのはヤクザがいいだろう。

ぶるるるるるるるるるる。

「はい。こちら、暴力団事務所です」

「あ。ボク、たけし。あのですね」

「はい」

「元旦の日に仕事を頼みたいんやけど」

「どんな仕事ですか？」

「射殺です」

来年の元旦は射殺しまくるぞ！

ヤクザは受話器の向こうで腕を組んだ。

「一応、射殺する相手と理由を聞いておきましょう。できれば、正月は危険な仕事は避けたいんで」

「相手？ 別に誰でもいいよ」

「は？ え？」

「理由もないよ。ないとダメ？」

「ダメって言われても、もし捕まったらうちの若い衆が臭いメシを食わにやならんでしよう。それくらいは聞いておかないと」

「ふーん。そうか。じゃーいいや」

「すみません。お役に立てなくて」

「ううん。こつちこそごめんね。急に頼みごとしちゃって」

「いえいえ。また今度の機会に頼みます」

「うん」

ガチャ。

なんだ。ヤクザも軟弱になりやがったな。昔の無鉄砲さがねエぞ。ああ。どうしよう。もたもたしていると、元旦になってしまう。

やはり自分で射殺しに出かけなきゃならないのか。

くそめんどくさい。うーん。やだなア。疲れる。引きこもりそう
だ。

しかし、男が一度やると決めたことをやらないのは何かダメだ。

なんとかして、元旦は射殺をがんばらねばならない。

あ。いいこと考えた。

子供にやらせてみるか。

公園に行く。

ちびっこたちがわらわら遊んでいた。

「おい。君たち」

「なーに。おっちゃん」

オレは拳銃を見せびらかした。

子供たちの目がキラキラ輝いてる。

「わーすげえ！」

来年の元旦は射殺しまくるぞ！

「ワルサーP38だア」

「これ、ホンモノなの？」

ふっふ、とオレは笑った。

「当たり前さ。どうだ、お前ら。これをぶっ放してみたくはないかい？」

子供たちは一斉に腕を組んだ。

オレは一斉に、やりたいやりたいと群がってくると思っていたので拍子抜けした。

「でもなア。それホンモノなんでしょ？」

「ホンモノだよ。気持ちいいぞ。スカツとするぞ」

「でもお父さんに怒られちゃうし」

「この歳で殺人犯になりたくないよね」

「そうそう。遊びとは違うものねエ」

なんだ。なんだ。なんだ。最近のガキは何て腰抜け野郎なんだ。

オレがしょんぼりしてるなか、その中の一人の女の子がオレに尋ねた。

「おじちゃん。それって誰を射殺してもいいの？」

お。なに？ 女の子のくせにやるじゃん。かつこいい！ 骨がある！

「いいとも、いいとも。好きに射殺すればいいんだよ。これはおじちゃんからのお年玉だ」

みんなが、やめなよやめなよと言って女の子を止める。

それでも女の子は拳銃を受け取る。

ほっ。これで一安心。正月は寝て過ごせるぞ。

ばあああああああああああああああああああああああああああああああ
あああああ

女の子が放った弾がオレの心臓を貫通し、まもなくオレは地面に倒れた。

来年の元旦は射殺しまくるぞ！

「き、気持ちいいわ……」

女の子の目がキラキラしてる。「う、怖い！

わー」

みんな一斉に逃げ始めた。

次々と鳴り響く銃声。そして、断末魔の叫び。

買い物帰りの天パーおばちゃんがそれ見て微笑んでる。

「ふふふ。子供は風の子ねエ。元気だ、ぎゃあ！」

流れ弾がおばちゃんに命中した。(了)

来年の元旦は射殺しまくるぞ！

広告募集中

小説関連広告に最適です。
出版社や印刷会社はもちろん、
個人の広告でもOK

縦：140mm 横：110mm

詳しくは PDF 小説ネット広告募集をご覧ください。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネットは2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3361d/>

来年の元旦は射殺しまくるぞ！

2009年3月24日10時00分発行